

授業科目名： 現代東アジア特論（ロシア） Contemporary East Asia (Russia)		担当教員名： 小泉 悠 Yu Koizumi	
選択/必修： 選択 Elective	単位数： 2	開講学期： 1 後 1 Fall	開講言語： 日本語

○授業の到達目標及びテーマ

ロシアは世界最大の国土面積を持ち、国連安全保障理事会では常任理事国の地位を占める大国です。また、ロシアは日本の隣国でもあります。にもかかわらず、我が国においてロシアという国に対する関心はあまり高くなく、正確な理解も不足しているというのが現状です。

そこで本講義では、日本が世界と東アジア地域の中でロシアと付き合いしていくために必要とされる知識の一式を獲得することを到達目標とします。具体的に取り扱うテーマとしては、ロシアの政治、外交、安全保障、経済、社会の5つを中心とします。

○授業の概要

【オンライン授業形態】

授業形態：オンライン授業（ライブビューイング型）

資料・連絡事項掲載場所：担当教員に確認

本授業では、2012年に第二期プーチン政権が発足して以降の現代ロシアを対象とします。

ここで問題になるのは「法の独裁」というプーチン政権の公式イデオロギーと、その実際の乖離です。「上に政策あれば下に対策あり」という中国の言葉に見られるように、政治が掲げるスローガンと現場の実態が食い違うというのはどこの国でも起こることですが、ロシアにおいてもこうした現象は顕著に見られます。したがって、単に公的な指針や制度を紹介するだけでは、ロシアという国を大きく見誤る可能性が拭えないでしょう。

そこで本授業では、基礎としての法的・制度的側面は押さえつつも、その実態がどうかを重視します。この点についてはロシアの歴史、日々の報道、講師の見聞などをフル活用するとともに、安全保障問題に関しては衛星画像も使用する予定です。

また、ソ連崩壊から30年を経ても、ロシアと旧ソ連諸国のつながりは密接です。経済的な相互依存関係、社会のつながり、外交関係はもちろん、旧ソ連諸国とそれ以外の国々の関係性にもロシアは敏感に反応します。ウクライナやジョージアのNATO加盟問題、ベラルーシでの人権弾圧をめぐる西側諸国との関係、アフガニスタンの不安定化と旧ソ連中央アジア部の安全保障問題などがそれです。

したがって、ロシアという国を理解する上では、法的に定義されたロシア国境内部のことだけを見るのでは不十分であり、少なくとも旧ソ連全体、できれば「ユーラシア」という単位の視点が求められるでしょう。この場合は中国やインドのようなユーラシア大陸との関係性が当然含まれてきますし、米中対立のようなグローバルな事象もやはり影響を及ぼしてきます。

また、2014年のウクライナ危機以降、ロシア自身が米国を始めとする西側諸国との緊張関係に陥っています。その直接的な影響を受けるのは外交・安全保障などであり、本授業でもこの点は大きく取り上げますが、同時に経済や社会への影響も無視できません。冷戦期以来最悪と言われる西側の関係が、実際の国民生活にどのようにして影響しているのかについても本授業では考えていきます。

なお、第1回目の授業において受講生と合意ができた場合には、受講生からも簡単な報告を行ってもらうことも計画しています。

○授業計画

第1回 オリエンテーション

授業全体の進め方について講師より説明するとともに、受講生からも興味関心事項などを簡単に紹介してもらいます。受講生による報告やその際の参考文献についてもこの際に話し合います。

第2回 「惑星ロシア ロシアの多様性を理解する」

国土や地理、宗教、民族、言語などに着目して、ロシアの巨大さと多様性について紹介していきます。

第3回 「帝国の崩壊 ソ連崩壊後のロシア」

ソ連崩壊後にロシアの政治経済社会が陥った混乱状況、国際的な威信の低下、軍事力の弱体化などに焦点を当てます。また、この時期にロシアで論じられた将来あるべき国家像についての思潮も紹介します。

第4回 「プーチンの社会契約 ロシアの政治と社会」

「権威主義的」と言われる現在のロシアがどのようにして成立したのかを、プーチン政権との関係性において論じます。

第5回 「剣と別荘 プーチン政権の権力関係」

第4回の講義内容から引き続き、プーチン政権下の国内政治について論じます。ここでは特にプーチン大統領を支える権力関係に焦点を当てます。

第6回 「勢力圏の思想 ロシアの旧ソ連諸国外交と対西側関係」

第3回で論じたロシアの国家像を基礎として、ソ連崩壊後のロシアが旧ソ連諸国や米国など西側諸国とどのような関係を結ぼうとしたのかについて論じます。

第7回 「カラー革命と現代ロシアの闘争観」

第6回からの続きです。旧ソ連諸国における一連の政変（カラー革命）をロシアがどう受けた止めたのか、これが2010年代以降の米露対立にどのようにつながっていったのかを、現代の国家間闘争に関するロシアの視点から読み解いていきます。

第8回 「宗教とロシア 正教とイスラムを巡るポリティクス」

ロシアには多様な信仰が存在しますが、その中心は正教です。そこで第8回では正教会とプーチン政権からの関係を扱うとともに、第二の信仰であるイスラム教との複雑な関係性についても扱います」

第9回 「地中海＝黒海紛争圏 シリア、リビア、ウクライナ、ナゴルノ・カラバフを巡るロ

シアの対外政策」

2014年のウクライナ介入に続き、ロシアは2015年にシリアにも軍事介入しました。さらに2010年代後半にはリビアにも秘密裏に民間軍事会社（PMC）を派遣しています。また、2020年には旧ソ連のアルメニアとアゼルバイジャンの間でナゴルノ・カラバフ地方を巡る戦争が勃発しましたが、これらの紛争に一定の連動性が存在するという議論をここでは展開しません。

第10回 「柔らかな下腹部 旧ソ連南部とアフガニスタン情勢」

旧ソ連のカフカス地方から中央アジアにかけての一带は「柔らかな下腹部」と呼ばれてきました。ソ連が崩壊するとこの一带では多くの紛争が発生し、2021年にはアフガニスタン情勢の不安定化によって再び懸念が強まっています。日本ではあまり論じられない旧ソ連南部の状況からユーラシア全体の安全保障にも視線を広げて論じます。

第11回 「ナヴァリヌィの乱と憲法改正 2020年代のロシアを見通す」

2020年7月、ロシアでは保守的な色彩の強い憲法改正が成立しました。翌8月には民主活動家アレクセイ・ナヴァリヌィが何者かに毒を盛られて昏睡状態となり、ドイツで治療を受けていましたが、帰国してすぐに逮捕されました。これら二つの事件を題材として、2020年代のロシアがどうなっていくのかについて考えます。

第12回 「象の隣で眠る 台頭する中国とロシア」

西側との関係が悪化する中、ロシアは中国との関係を強化しています。これがロシアという国家の先行きや対米関係にどのように影響するのか、その可能性と限界について論じます。

第13回 「インド太平洋とロシア ロシアの「アジア・シフト」と「自由で開かれたインド太平洋」構想」

第13回では、より広くインド太平洋地域とロシアの関係性を扱います。特にプーチン政権が掲げてきた「アジア・シフト」と、日米が中心となって推進している「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」構想との関わり方に焦点を当てます。

第14回 「北方領土交渉はなぜ挫折したのか 日露関係の経緯と現在位置」

第14回は日露関係を中心に論じます。冷戦終結後、日露はどのような関係を結んできたのか、北方領土交渉はなぜうまくいかなかったのか、現在の日露関係をどのように捉えるべきなのかが主要なテーマです。

第15回 総括

14回の講義を通じて見えてきたロシアの姿と今後、日本としての向き合い方などについて総括するとともに、受講生の皆さんも交えた幅広い議論を行ってみたいと思います。

○テキスト

特定の教科書は指定せず、必要に応じて適宜文献を取り上げます。また、受講生からの報告について合意が取れ場合には、報告内容に即した文献を紹介します。

ロシア語能力は求めません。

○参考書・参考資料等

同上

○学生に対する評価

授業への参加度 30%、期末レポート 70% (受講生による報告なしの場合)

授業への参加度 20%、授業中の発表 40%、期末レポート 40% (受講生による報告ありの場合)

○警戒レベル3以上の場合の授業形態について

授業形態 : オンライン授業 (リアルタイム配信型)

資料・連絡事項掲載場所 : 担当教員に確認